就任のご挨拶

(一社)日本環境測定分析協会
副会長　大角武志

この度，社員総会でご承認を頂き日環協副会長に就任致しました大角武志(株式会社オオスミ代表取締役)と申します。正会員，賛助会員の皆さま，どうぞよろしくお願い申し上げます。

私と日環協の出会いは，2006年11月に群馬県の伊香保温泉で開催された“第９回環境計量証明事業経営者セミナー”でした。このセミナーで聴いた故市田淳一社長(株式会社東海テクノ※以下「市田さん」と書かせて下さい)の講演に衝撃を受けたことを今でも覚えています。当時，私はこの業界に入り10年が経つところで，会社の代表に就任して3年目の頃でした。地元県単(都道府県ごとに構成する独自の協議会等)の中では，諸先輩経営者方の指導を頂きながら何とか業界の事が少し分かるようになっていた時期でもありました。自治体との災害協定や，クロスチェックなど業界団体として協力し合いながら発展している姿を見つつも，実際にはお互いが競合先であったり，競争をしたり，けん制し合っている姿を目の当たりにしてきました。当然と言えば当然ではありますが。

そんな中，市田さんは講演『環境計量証明事業における生産管理の必要性とその効果』の中で，自社の生産性改善に関する取り組み事例，課題，問題点などを赤裸々に語ってくれました。『そんなことまでオープンにして良いのだろうか？』と，驚きながらも共感し，また大変参考にさせて頂きながら必死でメモを取ったことを鮮明に思い出します。スループット，ボトルネック，ラボのレイアウト，IT化に関することなど，私自身何も知らなかったことを教えて頂きました。

その後，名刺交換をさせて頂き『何故そこまでオープンにされるのですか？』という質問をしたところ，『この業界で独り勝ちをしてはいけない』，『大変な事や苦しいことほど情報を共有し，皆で解決していかないといけない』と仰っていたことを今でもよく覚えています。そして『そうしないとこの業界は別の業界に飲み込まれてしまうかも知れないよ』という事も付け足されていたと記憶しています。

私は，自分の心の狭さを恥じると同時に，市田さんの言葉を噛み締め，協会の意義や業界同士の交わりの大切さを教わりました。

その翌年の2007年，経営者としてもまだまだ未熟な私ではありましたが，日環協の理事を務めないか？というお話を頂きました。当時，まだ40歳になったばかりの私には，身に余る大役でしたが，市田さんとの出会いや，日環協セミナーを通して学んだことなどを思い起こし，何ができるか分からないけど頑張ってみようと思いました。それ以来，在籍期間としては15年と長く理事を務めることになりました。

経営者としては未だに，日々葛藤中であり，勉強中であり，悩み事だらけの毎日を過ごしています。私に副会長をやってみないかと仰って頂いたのは，そんな悩みながら経営を続ける立場にいる一中小企業の代表だからではないかと考えています。自分のためだけではなく，業界のために何か一つでもお役に立てるのであれば，私に日環協の大切さを教えてくれた市田さんへの恩返しになるのではないかと考え，お引き受けしました。どこまでできるか分かりませんが，自分なりに精一杯務めさせて頂きます。

最後に一言，日環協は，カーボンニュートラルを実現させるべく，環境計量という枠にとらわれず，地球環境に貢献できる団体になれたら素晴らしいのではないかと考えています。